



介護事業部 さざなみ大池橋

高島 小汐



2019年8月に有限会社さざなみに中途で入社した高島小汐。現在、介護事業部に所属し、さざなみ大池橋に勤務している。以前から介護の世界に携わっていた高島に、仕事への思いと今後の展望を聞いた。

12年以上関わってきた 介護の世界

初めて介護の世界に携わったのは、高校1年生の時。授業の一環として、夏休みに1か月間、身寄りのない子どもたちがいる児童養護施設に泊まり込みでボランティアをした。高校卒業後は塗装業に就き、働きながらボランティアで児童養護施設へ通い続けていたという。しかし次第に、現職と理想の仕事とのギャップに悩み始める。

「今はやりがいよりも給料を優先して働いているけれど、やっぱり自分が楽しめる仕事がいい。そうして塗装業の仕事に区切りを

つけ、自閉症やダウン症、発達障害のある子どもたちの生活介護や放課後のケア、デイサービス、そして障害を持った人々が施設の中で働くことができるようになる就労移行支援の仕事に携わった。約4年が過ぎた頃、高齢者の介護も一通り挑戦してみたい思いが湧き始める。高齢者の介護職に就いている姉に相談し、多くのアドバイスをもらったことで心を決め、転職。こうして縁あって、さざなみに入社することになった。

新たな一面を知り喜びも ひとしお

高島にとって忘れられない出来事がある。放課後やデイサービスの生活介護で関わっていた中学2年生の子とのやりとりだ。その子は、無口で自分からはほとんど発信することがないため、高島から率先してコミュニケーションを取っていたという。

2019年の春、突然手紙をもらった。その手紙にはこう書いてあった。
「今度一緒にゲームして遊ぼうね」。

嬉しかった。自分の気持ちを理解してくれていたこと、知らない間に手紙を書いてくれていたこと。文字を書くこともままならなかったのに、家で母親と練習して書いてくれたのだ。

子どもは日々成長する。ずっとそ



たこ焼きパーティー

の成長を見ている身近な人でも、新たな一面に気づかされることもあるだろう。だからこそ高島も、レクリエーションなどの施設行事を通して、普段の生活では見られない利用者様の一面や笑顔が見られる瞬間を大切にしている。

また、変化が見られるのは子どもだけに限らない。現在の職場では、高齢者の方々が、日々コミュニケーションを取る中で、自分の名前を憶えてくれる。そんな変化を感じられることがやりがいとなっている。

本来あるべき姿とは

さざなみで働き始めてから、まだ数か月だが、常に報道相ができる職場で心地がよい。また、入社初日に緊張している高島に、「大丈夫？」と丁寧に声を掛けてくれ、働いている職員への気配りを早々感じることができた。

前職場は違った。管理者との意思

疎通がうまく取れず、残念ながら対立することも多かったという。優先順位としては管理者や運営が一番。知識不足から、利用者様への間違った対応をとる職員もいた。働いているうちに、違和感のある言動に不信感が高まっていた。

高島たちの仕事は施設の利用者様がいて成り立つものだ。さざなみの管理者にとって優先順位は利用者様が一番。その次に職員、管理者自身のことは最後である。それが日々の行動から伝わってくるのだ。自分自身、まだまだ利用者様への対応方法など勉強不足を感じている。今はわからなければ管理者に聞ける職場環境なので、自身の成長に繋げることが出来る。指導してもらえること、そして人を敬う気持ちを教えてくれるさざなみには、感謝しかない。

一歩ずつ確実に

今後の目標は、「介護の仕事にずっ



大阪マラソン応援しました

職場紹介

～さざなみ松屋町～

4号ではさざなみ松屋町を紹介!各事業所はどんな雰囲気でしょうか?一緒に働く仲間に注目してみましょう!

事業所の雰囲気

私どもは介護職員男性が10名、女性が7名、管理者が1名、事務員1名、調理担当が1名で構成されています。常に2フロアを約20名で運営しているため、職員同士の連携を大切にしながら業務に取り組んでいます。

利用者様との思い出

「私たち心はおしゃべりなのよ」と利用者様に言われたことが印象に残っています。日頃、あまりお話をしない方、言葉にするのが苦手な方でも心では話している。利用者様は不便があるなかで生活していて、言いづらいこともこちらから声をかけて寄り添う、その気づきが大切だと改めて感じました。

気になるあの人

西澤恭平さん

21歳の若手ですが気持ちがとても優しい子です。初めは利用者の方が「いや!」と拒んだら体が動けなくなっていました。そこで止めてしまうと食事や排泄などができなくなってしまいます。たとえ嫌がられたとしても角度を変えて一生懸命取り組んでいる姿をみて、この2年間でとても成長していると感じています。「後輩が入ってきたら、見本になる先輩になります!」と以前言ってくれたことがとても嬉しかったです。

介護事業部
管理者
にしやま たかのり
西山 隆法さん



▲土用の日のうな井



▲お化粧品教室の様子

独自の取り組みについて

まず1つ目はボランティアの活用です。屋上で菜園や季節のお花を育てているのですが、利用者様に水をあげてもらったり、野菜を収穫し料理に使ったりボランティアのみなさんと共に取り組んでいます。2つ目は美スギさんに来てもらい年に2回行う化粧品教室です。最初は綺麗になって喜んでおもう、と考えていたのですが、当日沢山の化粧品を並べたら、講師の方の話そっちのけでみなさんそれぞれ一斉に動き始めたのです(笑)その姿をみてこれから一人ひとり化粧品もやっていこうかな、と思いました。やはり昔から身につけている行動はいつになってもやりたいものか、と思いました。

スタッフとの思い出

年に一回開く忘年会です。普段なかなか一緒に食事をする機会がないので、普段の業務に対する取り組みや、熱い思いなども聞けてとてもいい場になっています。みなさんへ改めて感謝の気持ちも伝えられる場でもあるので大切にしています。

今後の目標

「安全と安心の暮らしを提供する」というモットーがあります。そのために一番大切なのは技術の向上、気づきだと思っています。「介助は技術」、「介護は気づき、心」だと思っています。月1回の研修もありますが、日々の生活で切磋琢磨しながらスキルアップしていき、技術と心をバランスよく持って今後も取り組んでいきたいと思っています。

有限会社さざなみヒストリー

～これまで大切にしてきた理念を改めて紐解いてみましょう～

1. 楽しく、自由に、ありのままに
2. 残された力で暮らす喜び
3. 家庭的な愛にあふれた暮らしを
4. 地域との交流と連携を図る

代表取締役の林康夫は、ご利用者様の安心と安全があってこそ当社の発展・伸長があるとの考えから、常にご利用者様目線を念頭に置いています。『謙虚さと優しさをもって接すること』私たちはこの精神を受け継ぎ、何事にもまっすぐに立ち向かい、ご利用者様や地域とともに共生することを願っています。

「ご利用者様との共生」

その実現に挑戦し続けていく姿勢に支えられてきました。あらゆるケースに柔軟な対応が求められる業界の流れの中では、企業として変革が常に求められます。介護環境、介護技術、人、市場などの変化の中で新しい道を生み出すことです。

「楽しく、自由に、ありのままに・残された力で暮らす喜び・家庭的な愛にあふれた暮らしを」

サービスを受けられるご利用者様の生活に安心と安全、自由と活力、そして第二のお家の温もりを感じてもらえるように心がけます。また、その中にはご利用者様の言葉にならない声を聞く力を育てていくという思いが込められています。

体験談.....

今の自分の介護は自己満足に過ぎないのでは?と振り返ることがありました。

私は入居者様のために『気を利かせる』『がんばる』ことが大切だと思っていました。例えば、床に落ちたティッシュの箱を、気を利かせて入居者様の近くのテーブルに置いたとします。すると、「あなたはいま、3つの機会を逃した」と指摘されました。

1つ目は、「拾えますか?」と声を掛ければ、動けるかどうか確認できた。

2つ目は、「痛みはありますか?」と聞けば、体の痛みが確認できた。

3つ目は、動くことを意識するチャンスを奪ったと。介護の奥深さを学んだ体験でした。

「地域との交流と連携を図る」

地域共生社会を志しています。私たちは生活をする中で、様々な地域資源の恩恵を受けています。それは企業が、同じく地域資源としての活躍を求められていることだと感じています。お節介かもしれませんが、地域で起きていることを、地域にある企業、またはそこに住む人として、我が事と捉え、問題解決に取り組めるように積極的に行動します。